

戦後80年、貴重な平和の取組いくつも



(上) 柿崎区の浄福寺での記念写真をもとに絵にしました。
前列の右端が私の
(右) 原爆パネル展



今年は戦後80年という節目の年です。上越市においては非核平和友好都市宣言をしてから30年という年でもあります。市内では、行政や市民団体などが平和関連資料の展示などいろいろな取組をして平和への誓いを新たにしました。

3日は新婦人の原爆パネル展、市の平和展を観てきました。市民プラザで行われた新婦人の原爆パネル展では、おばあちゃんが孫(たぶん亡くなっていた)を背中に負っている絵が切なかったです。原爆パネル展は写真が中心ですが、絵も惨状をよく伝えてくれます。小川未明文学館での市の平和展、名立の機雷爆破事件、杉みき子さんの『金谷山ものがたり』のなかで書かれた直江津空襲、そして、原爆についての質問パネル、とても勉強になりました。

9日は長崎市に原爆が投下された日から80年目の日でした。私は柿崎区の浄福寺で投下の時間に合わせ、鐘をついて手を合わせました。参加者全員が鐘つきを終えた段階で、ご住職から、「なかなか戦争がなくなりませんね。長崎の方に向かって手を合わせましょう」と声がかかり、みんなで合掌しました。記念撮影では、核兵器禁止条約に日本も参加するよう求めたボードを掲げて撮りました。



コウノトリのペア。12日、柿崎区角取にて撮影。



【オニバス】スイレン科の一年生水草の一種。漢字で「鬼蓮」と書きます。水面に浮かぶ大きな葉が個性的です。新潟県では絶滅危惧Ⅱ類。上越市内では、私の知る限り三和区と吉川区にはあります。花期は8月から10月、赤紫色等の花を咲かせます。花には開花しない閉鎖花と開く開放花があります。花言葉は「神秘的」「真心の贈り物」。写真は三和区の谷内池にて19日午前、撮影しました。



ハスの花販売

"清らかな心"が花言葉のハスの花。今年もお盆を前に吉川区原え町青年会のみなさんが場々谷池のハスの花をとり、販売しました。私も購入し、墓参りで持参し、供えました。

吉川区の杜氏の郷のイベントに何と570人もの人たちが集まりました。11日のサマーフェスティバルのことです。
当日の出演者は人気急上昇中の地元コミュニティバンド・ピアス、長岡を拠点にして全国を飛び回っている「ひなた」、そして長岡市出身の歌手、中澤卓也です。
この日はいつ雨が降ってもおかしくない空模様でしたが、主催者の吉川観光協会の絶妙な判断が実りました。昭和歌謡、地元のオリジナルソングなどで盛り上がり、雨雲を吹き飛ばしました。
イラストはこの日の最終場面で、出演者が勢ぞろいして中島みゆきの「糸」を歌っているところです。

はしづめ法一の活動レポート

No.2216 2025.8.24

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

第八六三回 最後の里帰り

携帯電話を入れ、「きょう、来る日だったよね。いつ頃、行ったらいなるかね」と訊(き)いたら、「もう着いています」との返事でした。二〇分ほどで後生寺の家に到着。木戸先に軽乗用車を止めて、玄関まで行くと、奥の方から「お忙しいのにすみませんね」と言いながらシゲルちゃん顔を出してくれました。

叔父の家に入ったのは叔父の葬儀以来です。それから三年ぶりです。靴を脱いで、ゆつくりと居間に上がりました。シゲルちゃんに、「ずっといねかったすけ、傷んでいるだろね」と訊くと、「歩くと床が落ちそうなところもあるんですわ」と言われました。実際、いつも叔父が座っていた場所、座敷に近い場所は、傷みが激しく、歩くと「ぼよんぼよん」していました。全体重をかけるのは危険だと感じました。

居間から座敷に入りました。最初に目に入ったのは仏壇です。左側に叔父、右側には叔母の小さな遺影が置いてあり、線香立てや香呂などがありました。それらを見たら、胸がいっぱいになりました。叔父の遺影に向かって、「父ちゃん、頑張ったね、長い間、一人でこの家を守ったんだもん」と声をかけました。シゲルちゃんに「叔母さん、亡くなったのは六八だったけ」と訊くと、「そう、親父は二十数年頑張ってくれました」と言いました。

床の間方向に目を向けたら、吉川町史など分厚い本が数冊並んでいました。その右に大きな違うアルバムが三冊ありまして。「これは、見たい」そう思って、座り込んで一つひとつ見せてもらいました。

一番上にあったアルバムは、叔父が最後までお世話になった柿崎区芋島のグループ

アルバムには誕生日祝いなどの行事での叔父の元気な姿が写っています。そのなかにはVサインをしたものがとても多く、思わず、従弟に「父ちゃん、いつもVサインしているなあ」と声をかけました。私とのツーショットもありました。五年前の二月六日の撮影です。背景の壁には日めくりカレンダーがあり、大きな「6」という数字が見えました。

このアルバムの中で一番感動したのは、叔父が亡くなる前年の七月二十七日の日付が入った写真です。「吉川までドライブ♪」という小さな紙が貼られていて、車中から叔父の家に向かって手を合わせている叔父の姿が写っていました。写真は二枚で撮影時刻は一五時一五分と一五時一九分です。スタッフの皆さんが、気をつかってくださり、少なくとも四分、叔父の家の近くにてくたさったことが今回見たアルバムでわかりました。この時間、叔父にとって最高の時間帯だったに違いありません。

別のアルバムでは、三六年前、一九八九
年一二月に撮った写真、懐かしく見させて
もらいました。これには「東」（屋号）の
伯母（故人）、下町の伯母（故人）、河沢
の叔母が写っています。シゲルちゃんが、
「河沢の叔母さん、見たとき、母とそっく
りだと思った」と言っていました。この
三人の顔を改めて見ると似ています。

叔父の家はお盆後に解体されます。家を出て、改めて車庫から住宅、そして味噌づくりの建物まで見たとき、アブラゼミの鳴き声が耳に入ってきました。空は鮮明な青です。シゲルちゃんと後生寺の家に何度も手を振ってさよならしました。

ニュースフラッシュ

参加者のみなさんからは交尾、雪降るなかでの抱卵、コウノトリ同士のたたかい、ウシガエルを丸呑みする様子などの場面に注目していただきました。映像を見て驚きの声が上がることもしました。コウノトリ同士のたたかいを紹介する場面では、俳優の菅原文

そして最後に、①コウノトリは
"幸せを運ぶ鳥"であり、絶滅危
惧種。安全、安心な食料生産環境
があってこそ、生きられる。有
機、環境保全型農業の推進をして
いこう、②コウノトリは地域の
宝。コウノトリの郷づくりは地域
づくり、観光振興の目玉となりう
る。みんなで大切に育てましょ
う、と訴えました。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μ Sv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月6日(水)	8月20日(水)
上越消防署	0. 0 5 3	0. 0 5 3
上越南消防署	0. 0 5 0	0. 0 4 7
新井消防署	0. 0 5 3	0. 0 4 0
頸北消防署	0. 0 5 3	0. 0 5 0
頸南消防署	0. 0 5 3	0. 0 6 7
東頸消防署	0. 0 5 0	0. 0 4 0
名立分遣所	0. 0 6 0	0. 0 6 0
高士分遣所	0. 0 5 7	0. 0 5 3